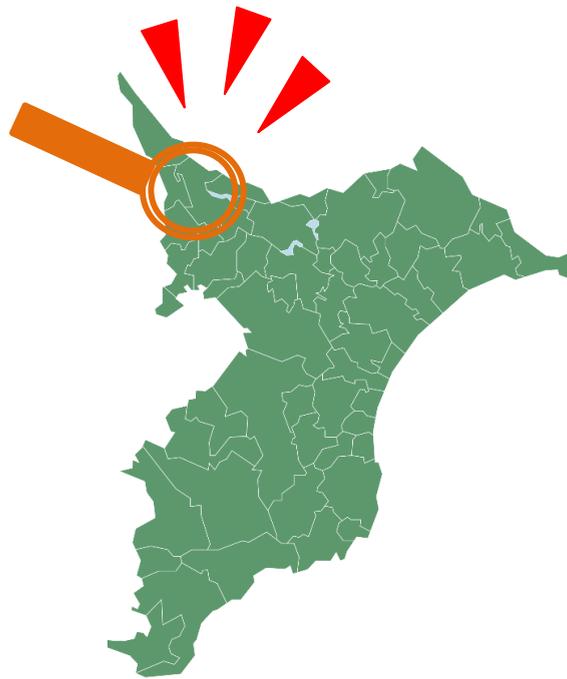


2022・12

# 柏の景気情報

令和4（2022）年12月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和4年12月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

回答期間: 令和4年12月22日～令和5年1月6日 調査対象: 柏市内146事業所及び組合にヒアリング、回答数98

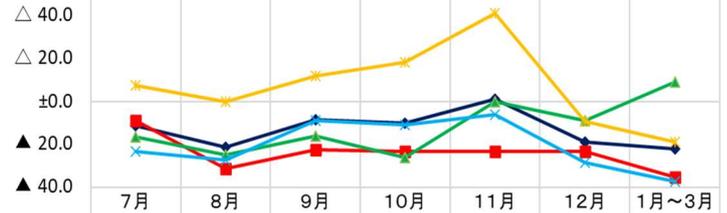
### 全産業DIは大幅に悪化。先行きは感染拡大への懸念や原材料費、電気代等コスト上昇から厳しい見方

12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.9(前月水準△1.1)となり、前月から20.0ポイント悪化した。

12月は建設業を除いた業種でDI値が悪化。3年ぶりに行動制限がない年末年始となり、卸小売業ではクリスマス、年末商戦が好調、建設業では畳工事の企業受注が好調、製造業ではインバウンドの戻りで設備投資増加、サービス業ではカーボンニュートラルに向けて電炉設備の計画支援が好調との声が寄せられた。一方で、原材料、電気代等コスト増加の継続による収益悪化に感染拡大が重なった。物価高による消費意欲の低下も見られた。

先行きDI値は▲22.1(今月比▲3.2)で、感染拡大やコスト増による収益悪化の継続で厳しい見方である。

柏の景気情報・産業別業況DI



▲40.0							
△20.0							
±0.0							
▲20.0							
▲40.0							

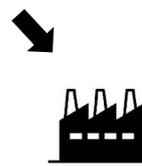
## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「公共工事の単価が現在の値上げのスピードに追いついていない」(塗装工事)、「インボイス制度の対策が不安」(瓦斯機器、暖房空調工事)、「一般顧客の畳工事受注は減少しているが、リフォーム会社や工務店からの受注が好調」(畳)、「新年に向けて見積もりの依頼は多いが、仕事に結びつくのは数パーセント。相見積もりが多く、利益を得るのはとても難しい」(とび)



製造業

「化粧品容器の受注は低迷したまま。医療品容器は新企画や量産受注に改善が見られた」(プラスチック加工)、「インバウンドが戻りつつあり設備投資が増加」(機械・同部品)、「太陽光パネルの導入を決めたが、部品が調達できず納品の目処がたたない。電気代を抑えるためにも早い納品が待たれる」(金属製品)、「コロナ第8波に伴い社員の濃厚接触者増加で、テレワーク等を活用。売上は予算見通しを上回っているが、原燃料コスト増加で収益悪化。1～3月はユーザーの在庫調整もあり、売上減に加え原燃料増加で収益は厳しい」(鉄鋼)、「ロシア・ウクライナ情勢不安の長期化や円安により、原油高、原材料高が続き、仕入商材の値上げが止まらない。一方で、売上も低調で、国内需要そのものが落ちてきている。顧客の二極化が進み、売上が伸びているもしくは現状維持できている顧客と徐々に売上が落ちていく顧客とがはっきりしてきた」(自動車付属品)



卸・小売業

「人の活動は活発化するも、クリスマス等のイベントはイエナカ傾向。価格高騰の影響でお客様は非常に価格に敏感。セール内容で集客が変わる」(大型小売店)、「感染症の影響は少なくないが、新たな生活様式に則った商流、習慣に既存の社内資源をフィットさせていく事が重要。SDGs、社会的責任を意識した商品開発、販路拡大、新規事業への参入を軸にしていく」(食料卸売)、「コロナ前ほどではないが賑わいが戻ってきた。しかし、仕入や光熱費高騰分の価格転嫁に限度がある」(各種商品小売)、「仕入、燃料費高騰分の転嫁はできたが、電気代まではできていない」(飲食料品小売)、「3年振りの行動制限のない年末商戦となり、クリスマス週間を中心に被服雑貨が2ケタ伸長。食物販もケーキ需要が大きく伸び賑わいを取り戻した」(百貨店)、「中国経済の悪化に伴って、対中依存度が高い東南アジア各国の景気が悪化している気がする。世界的な景気後退による日本への影響が気になる。中期的には売上が厳しいと予想し、国内の新規事業に重心を置いている」(産業機械器具卸売)



サービス業

「年度末に向けた工事が多い。年度明けが不明」(ソフトウェア)、「TX沿線の不動産価格の上昇が著しい。購入に適した売地も希少」(不動産賃貸・管理)、「不動産価額の上昇が続く。原材料費の高騰で建築費も急上昇。金利の先高観や諸物価の大幅アップで、購入客が減少しそう」(不動産管理)、「1～2月の寒波で売上は1～2割下がる見通し。来年の3月頃は再値上げを予定」(ゴルフ練習場)、「鉄鋼関連はカーボンニュートラル達成に向けて高炉から電炉へシフト。この電炉用排ガス処理設備の交換や容量の集約による大型化など需要拡大が予想され、計画助勢も増加見込み」(専門・技術サービス)

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲18.9に対し、「CCI-LOBO」が▲18.4。柏の値が全国より悪化したのは4か月ぶり。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業である。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.9	 ▲ 23.5	 ▲ 9.0	 ▲ 28.5	 ▲ 9.5
CCI-LOBO	 ▲ 18.4	 ▲ 27.2	 ▲ 14.2	 ▲ 32.1	 ▲ 7.0
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 3.1	 ▲ 17.6	 ±0.0	 8.5	 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 0.6	 ▲ 17.5	 10.4	 ▲ 17.8	 10.1
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 26.3	 ▲ 29.4	 ▲ 45.4	 ▲ 25.7	 ▲ 4.7
CCI-LOBO	 ▲ 24.1	 ▲ 31.3	 ▲ 24.8	 ▲ 33.8	 ▲ 15.3
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 74.7	 ▲ 76.4	 ▲ 95.4	 ▲ 80.0	 ▲ 42.8
CCI-LOBO	 ▲ 74.4	 ▲ 83.8	 ▲ 82.1	 ▲ 71.4	 ▲ 66.4
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.7	 17.6	 18.1	 5.7	 28.5
CCI-LOBO	 20.5	 31.6	 14.6	 13.3	 26.4
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 12.6	 ▲ 17.6	 ▲ 9.0	 ▲ 14.2	 ▲ 9.5
CCI-LOBO	 ▲ 16.5	 ▲ 10.0	 ▲ 14.4	 ▲ 26.2	 ▲ 16.7

調査期間：2022年12月13日～19日

調査対象：全国の329商工会議所が2,525企業にヒアリング調査を実施

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(12月速報)

### 全国の業況

業況DIは、コスト上昇に感  
染拡大が重なり、悪化。先行  
きは、物価高や外需停滞の懸  
念から厳しい見方

12月の全産業合計の業況DIは、▲18.4と、前月から▲2.0ポイントの悪化。製造業では、部品等の供給制約の一部緩和に加え、企業の堅調な設備投資需要に牽引され、業況が改善した。

また、卸売業でも、製造業向けの原材料・部品等の引き合いが増加し、改善した。一方、建設業では資材・燃料価格の高騰に加え、人手不足による受注機会の損失で業況が悪化した。また、小売業・サービス業では、物価高に感染拡大が重なり、消費マインドが一段と低下し、業況が悪化した。経済活動が正常化に向かう一方、原材料・エネルギー価格の高騰や人件費の増加等、コスト負担増は継続している。増加するコストに見合う十分な価格転嫁も行えていない中、感染拡大も重なり、中小企業の業況は悪化に転じた。

先行きについては、先行き

見通しDIが▲23.8(今月比▲5.4ポイント)と悪化を見込む。全国旅行支援の継続による観光需要の回復や、年末年始商戦を契機とした個人消費拡大への期待感が伺える一方、感染拡大による消費マインドのさらなる低下を危惧する声が聞かれた。引き続き、エネルギー価格の高騰によるコスト負担増や深刻な人手不足が企業経営の足かせとなる中、欧米等の世界経済の鈍化による外需の停滞も懸念され、中小企業の先行きは、厳しい見方となっている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、小売業、サービス業で悪化、その他の業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「経済活動は戻りつつあり、民間工事を中心に大型案件を受注できるよ

うになってきた。一方で、専門的な技術者が不足しており、大型案件を受注すると、他の工事に人員がまわらず、対応が出来ない状況も発生している」(二般工事業)、「仕入単価の上昇分は、顧客と協議の上で販売単価へ上乗せ出来ているが、他社との価格競争もあり、上乗せ金額は最小限となっている」(電気通信工事業)

【製造業】「半導体等の供給が少しづつ回復し、生産も順調に推移しており、売上は改善している。今後の物流停滞や仕入価格のさらなる高騰に備え、先んじた部品の大量調達を実施せざるを得ない状況のため、多くの在庫を抱えてしまいうケースも発生している」(金属加工機械製造業)、「材料費の高騰に対する価格転嫁は取引先にも協議できているが、エネルギー価格の上昇に伴うコスト増分の交渉は苦戦している」(金物類製造業)

【卸売業】「物流の停滞も少しづつ回復しており、取引先からの発注も増加している。経済活動が正常化に向かう中で、需要が増加しているのは喜ばしい限りだが、コロナ禍

で希薄になった取引先との関係性の再構築を図っていく必要がある」(各種包装資材卸売業)、「物価高による一般消費者の購買意欲の低下でスーパー等からの受注は減少している。宿泊施設などの新たな販路開拓を図っていく」(食料・飲料卸売業)

【小売業】「日用品のほぼ全てが値上がりしており、必需品のみの売上に留まってしまっている。加えて、電気代の高騰による負担が大きく、収益を圧迫している。商店街内にも空きテナントが増加しており、本来の年末年始の活気は戻っていない」(商店街)、「全国旅行支援で旅行客は増加しているが、物価高により消費者の購買意欲は低下しており、土産品の売上は低迷が続いている」(酒小売店)

【サービス業】「全国旅行支援の恩恵もあり、宿泊客が増加し、業況は回復基調で推移している。一方で、光熱費や仕入品の価格上昇によるコスト負担増は今までにないほど大きく、収益を圧迫している。また、人手不足も深刻で、今後のさらなる需要増に向けた対策が急務である」(宿泊業)、「団体客の予約が戻ってきた矢先、感染者数の増加でキャンセルが発生した。消費者の意識がコロナとの共生に向かつてほしい」(飲食業)

### 全国・産業別業況DIの推移

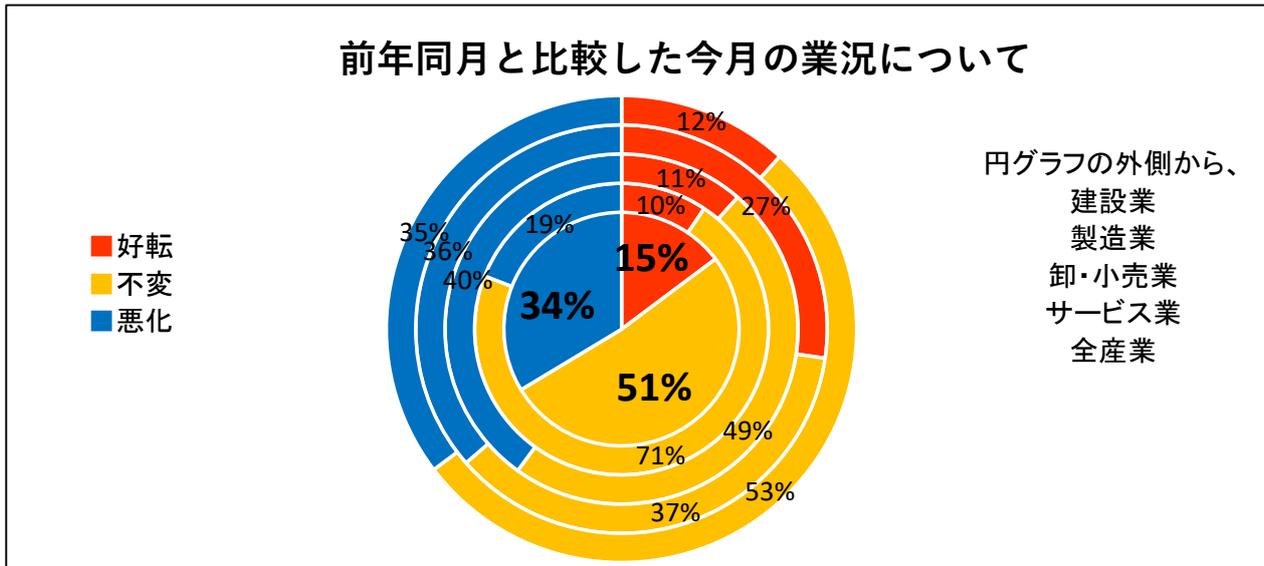
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲17.8	▲28.7	▲17.9	▲18.1	▲25.2	▲4.1
8月	▲21.0	▲26.4	▲18.9	▲24.8	▲30.7	▲10.2
9月	▲23.3	▲28.7	▲23.3	▲27.2	▲31.9	▲11.4
10月	▲20.7	▲29.9	▲20.1	▲21.1	▲29.4	▲8.1
11月	▲16.4	▲22.9	▲16.2	▲20.3	▲23.9	▲4.5
12月	▲18.4	▲27.2	▲14.2	▲16.3	▲32.1	▲7.0
見通し	▲23.8	▲26.6	▲18.7	▲23.3	▲35.6	▲18.1

# 令和4年（2022年）12月の動向

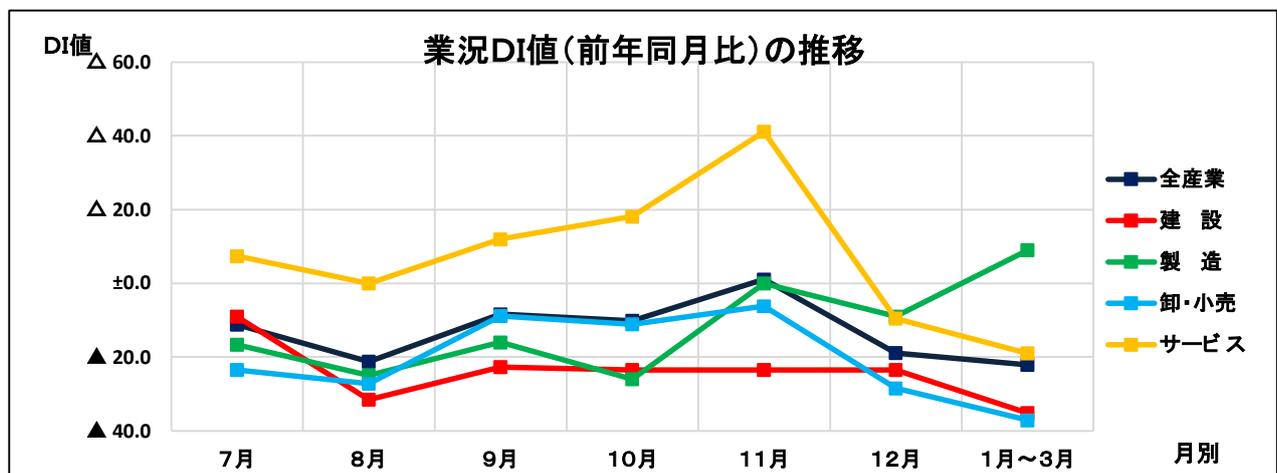
## 【業況について】

- 12月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲18.9（前月水準△1.1）となり、プラス幅が20.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（1月から3月）の先行き見通しについては、全産業では、▲22.1（前月水準▲16.8）となり、マイナス幅が5.3ポイント拡大する見通しである。



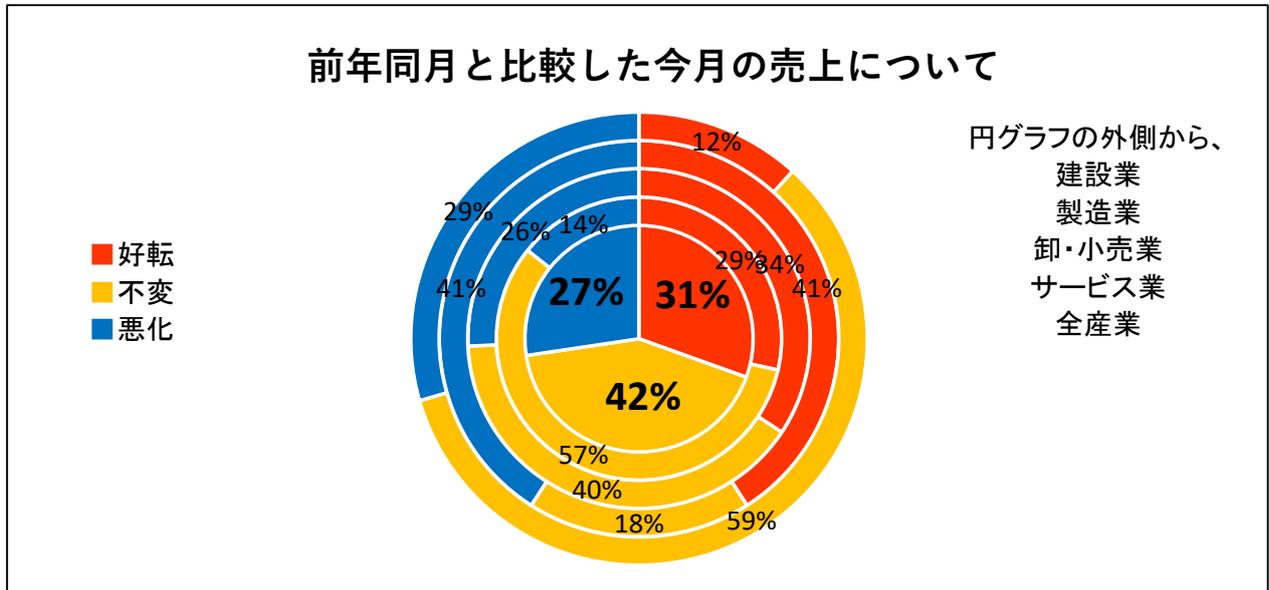
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月～3月（12月～2月）
全産業	▲11.2	▲21.2	▲8.4	▲10.2	△1.1	▲18.9	▲22.1（▲16.8）
建設	▲9.0	▲31.5	▲22.7	▲23.5	▲23.5	▲23.5	▲35.2（▲23.5）
製造	▲16.6	▲25.0	▲16.0	▲26.0	±0.0	▲9.0	△9.0（▲8.6）
卸・小売	▲23.5	▲27.2	▲8.8	▲11.1	▲6.2	▲28.5	▲37.1（▲28.1）
サービス	△7.4	±0.0	△12.0	△18.1	△41.1	▲9.5	▲19.0（±0.0）



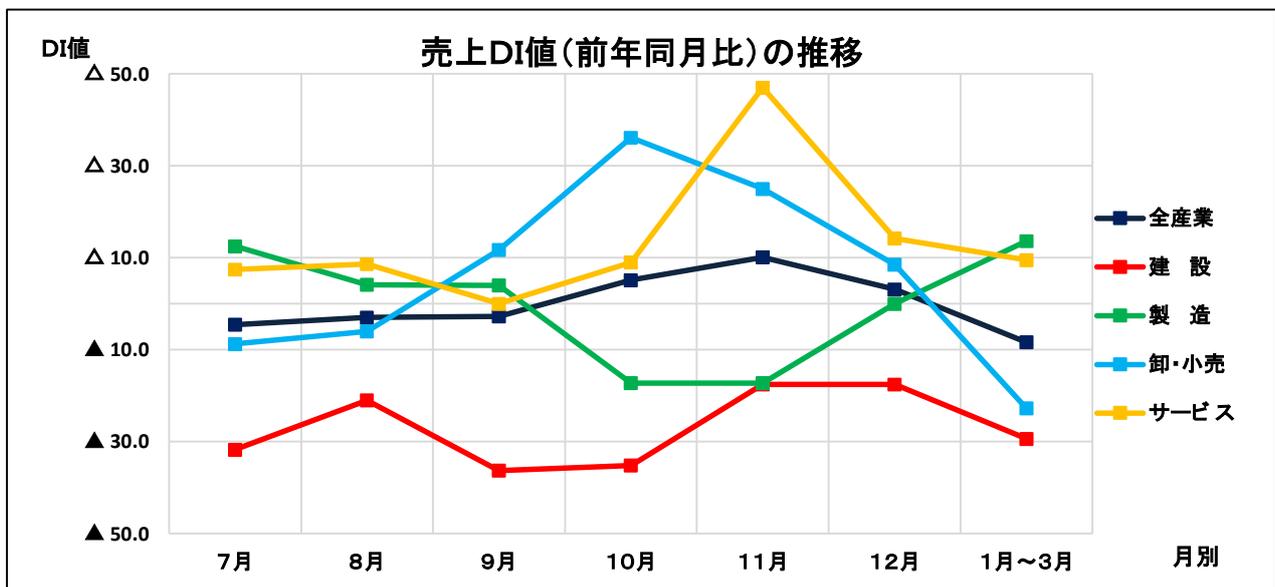
【売上について】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△3.1(前月水準△10.1)となり、プラス幅が7.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.4(前月水準▲1.1)となり、マイナス幅が7.3ポイント拡大する見通しである。



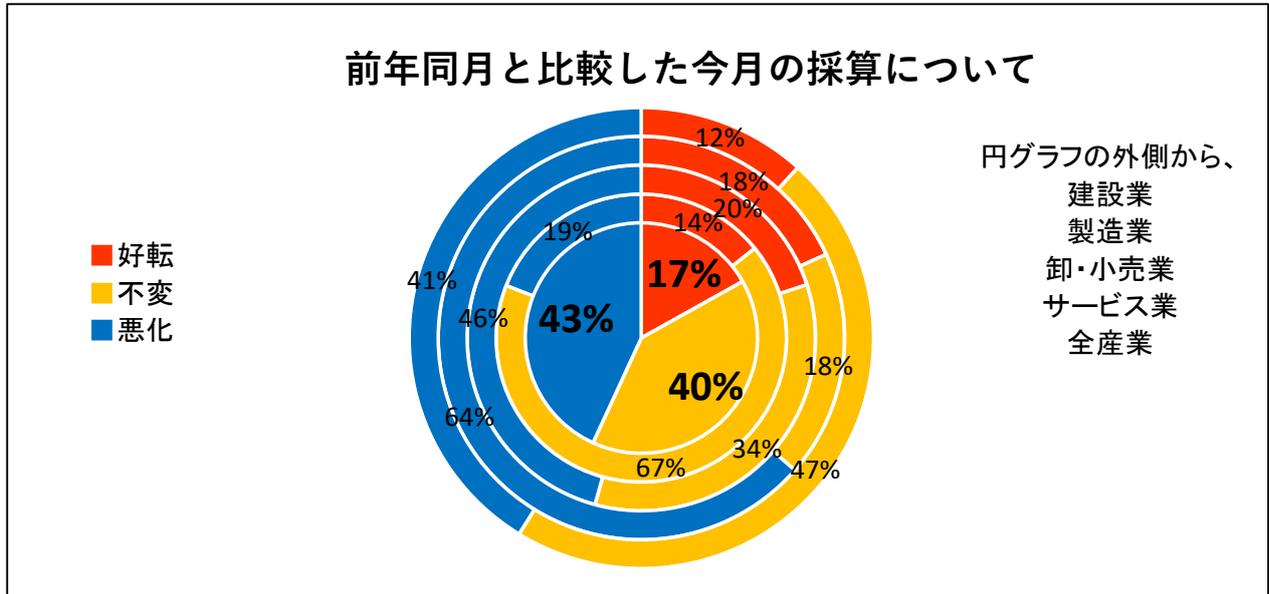
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月~3月(12月~2月)
全産業	▲4.6	▲3.0	▲2.8	△5.1	△10.1	△3.1	▲8.4(▲1.1)
建設	▲31.8	▲21.0	▲36.3	▲35.2	▲17.6	▲17.6	▲29.4(▲17.6)
製造	△12.5	△4.1	△4.0	▲17.3	▲17.3	±0.0	△13.6(△8.6)
卸・小売	▲8.8	▲6.0	△11.7	△36.1	△25.0	△8.5	▲22.8(▲18.7)
サービス	△7.4	△8.6	±0.0	△9.0	△47.0	△14.2	△9.5(△35.2)



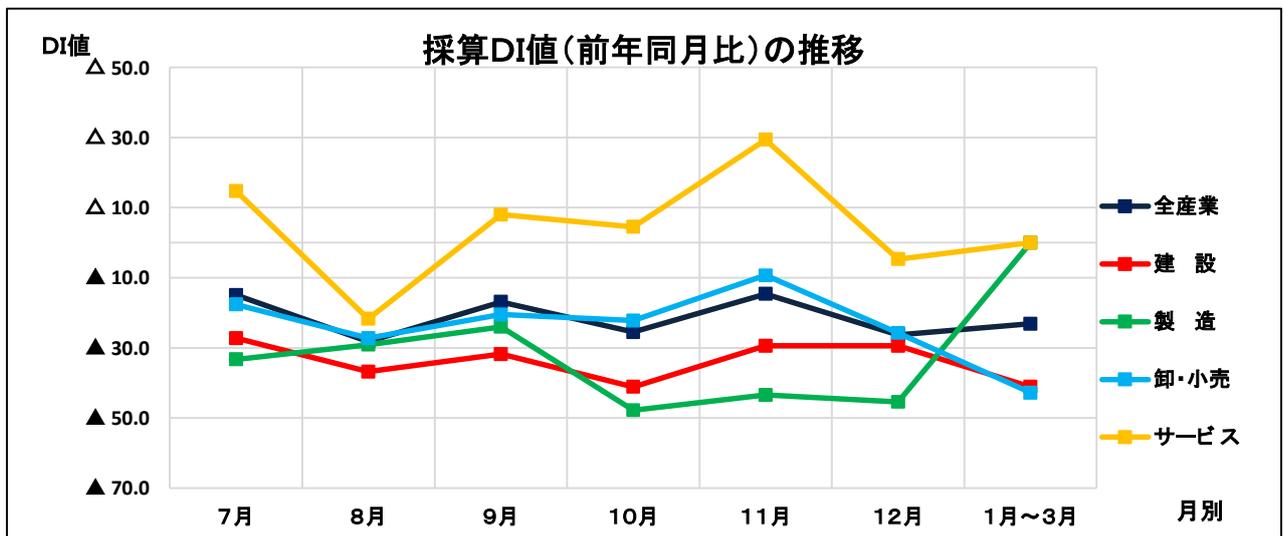
【採算について】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.3(前月水準▲14.6)となり、マイナス幅が11.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.1(前月水準▲21.3)であり、マイナス幅が1.8ポイント拡大する見通しである。



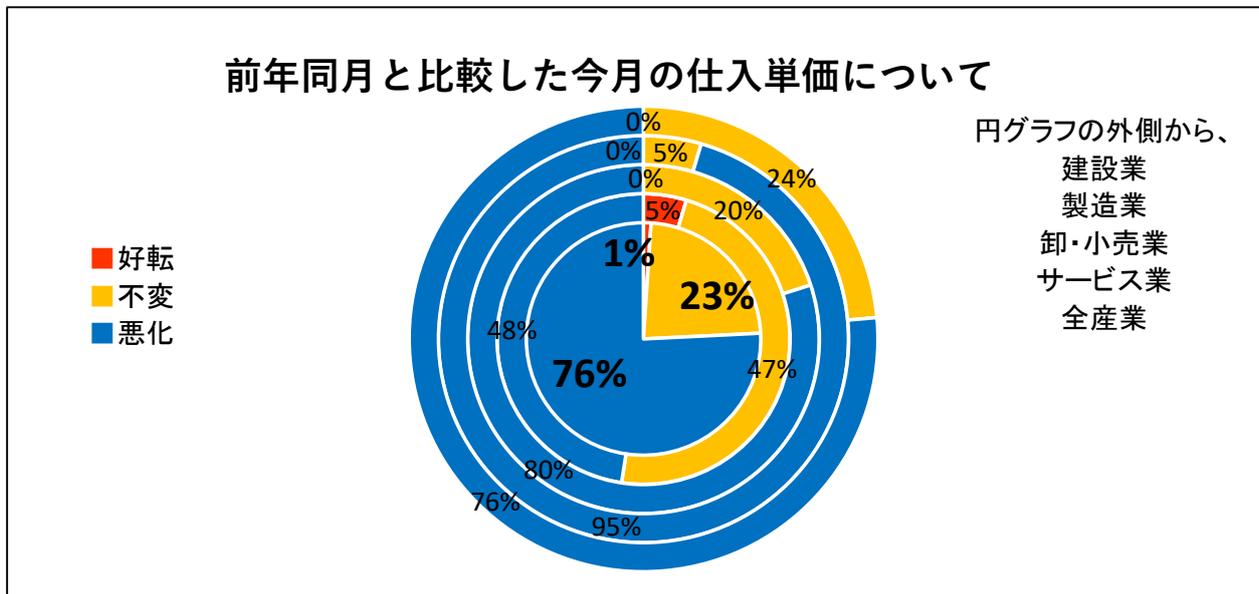
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月~3月(12月~2月)
全産業	▲14.9	▲28.2	▲16.9	▲25.5	▲14.6	▲26.3	▲23.1(▲21.3)
建設	▲27.2	▲36.8	▲31.8	▲41.1	▲29.4	▲29.4	▲41.1(▲17.6)
製造	▲33.3	▲29.1	▲24.0	▲47.8	▲43.4	▲45.4	±0.0(▲21.7)
卸・小売	▲17.6	▲27.2	▲20.5	▲22.2	▲9.3	▲25.7	▲42.8(▲43.7)
サービス	△14.8	▲21.7	△8.0	△4.5	△29.4	▲4.7	±0.0(△17.6)



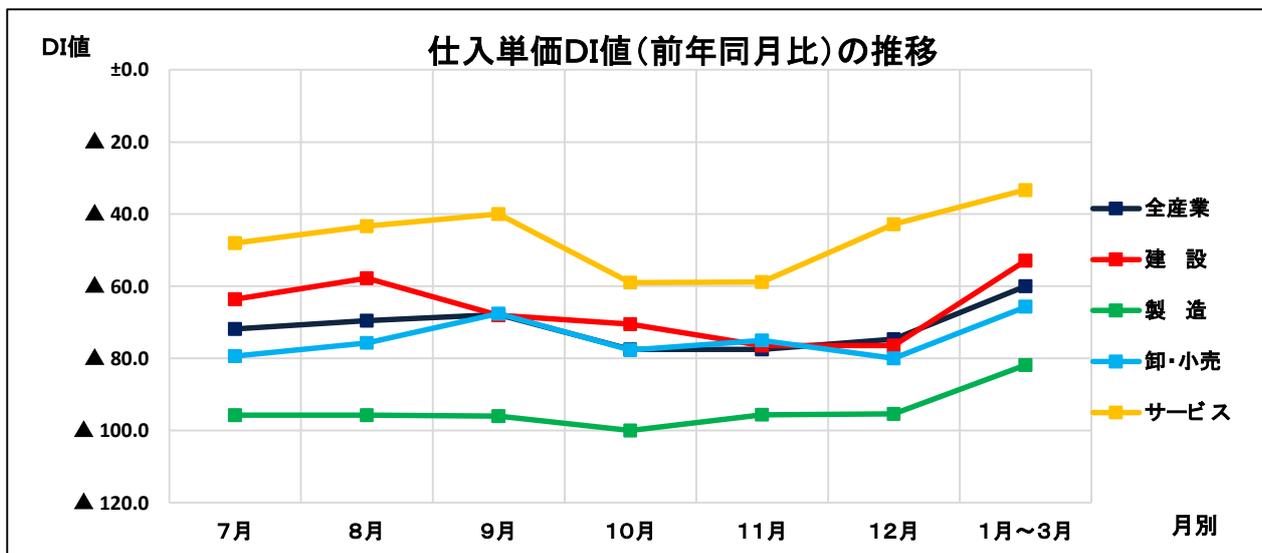
【仕入単価について】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲74.7(前月水準▲77.5)となり、マイナス幅が2.8ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲60.0(前月水準▲67.4)となり、マイナス幅が7.4ポイント縮小する見通しである。



仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

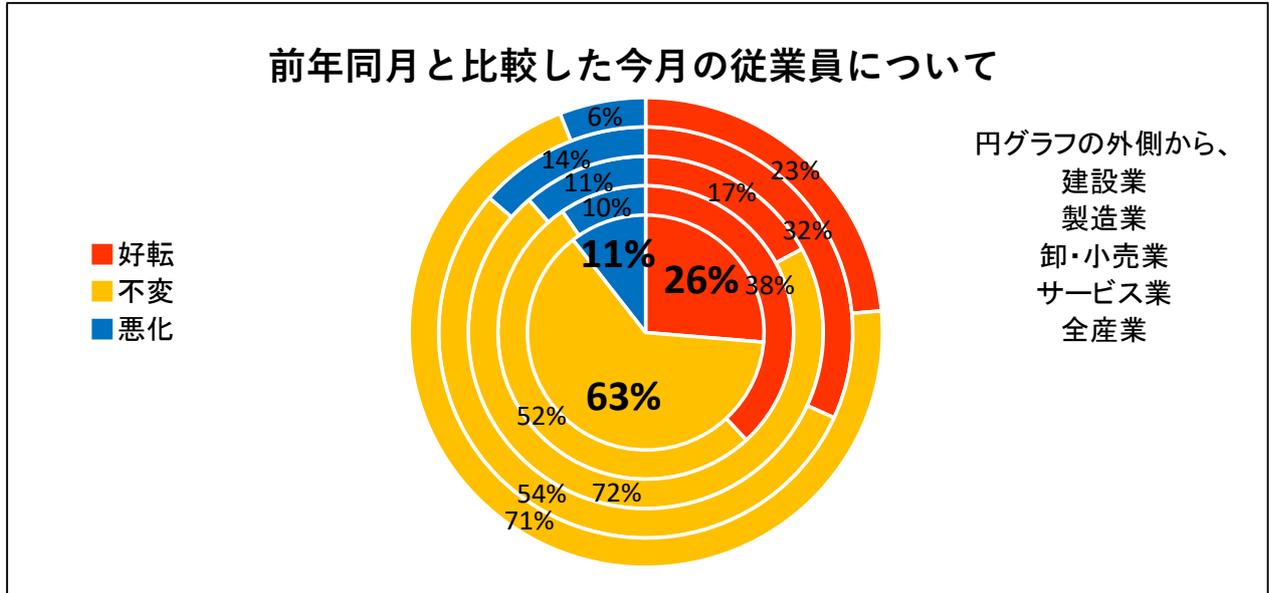
	令和4年						先行き見通し
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月~3月(12月~2月)
全産業	▲71.9	▲69.6	▲67.9	▲77.5	▲77.5	▲74.7	▲60.0(▲67.4)
建設	▲63.6	▲57.8	▲68.1	▲70.5	▲76.4	▲76.4	▲52.9(▲58.8)
製造	▲95.8	▲95.8	▲96.0	▲100.0	▲95.6	▲95.4	▲81.8(▲82.6)
卸・小売	▲79.4	▲75.7	▲67.6	▲77.7	▲75.0	▲80.0	▲65.7(▲68.7)
サービス	▲48.1	▲43.4	▲40.0	▲59.0	▲58.8	▲42.8	▲33.3(▲52.9)



【従業員について】

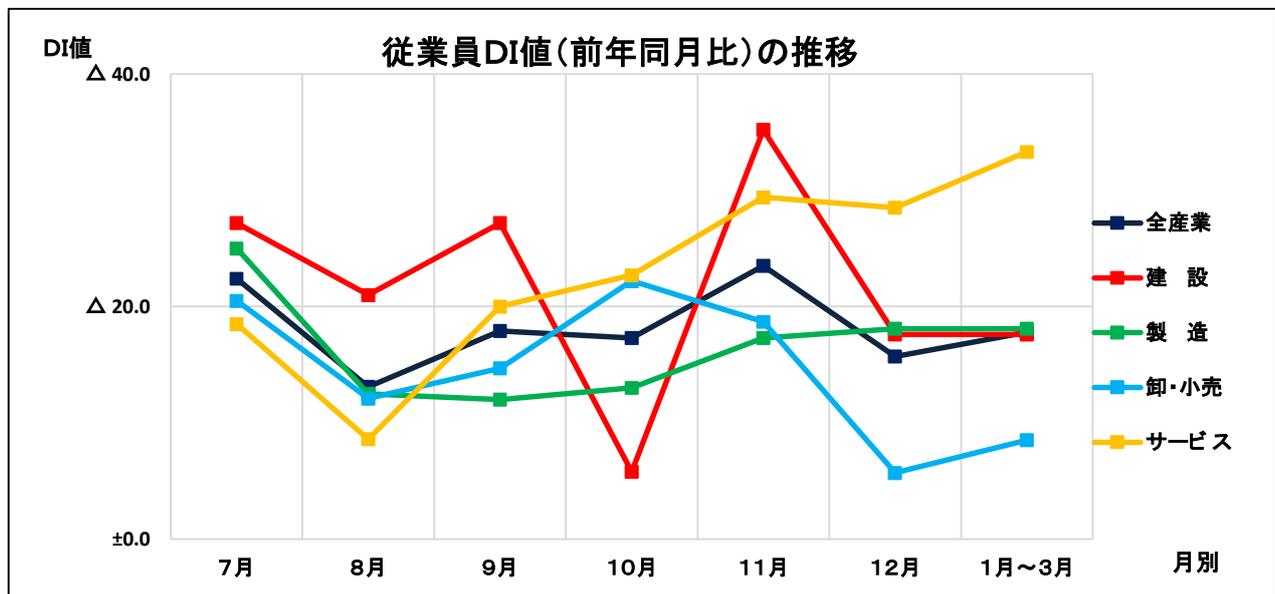
○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△15.7(前月水準△23.5)となり、プラス幅が7.8ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、△17.8(前月水準△24.7)となり、プラス幅が6.9ポイント縮小する見通しである。



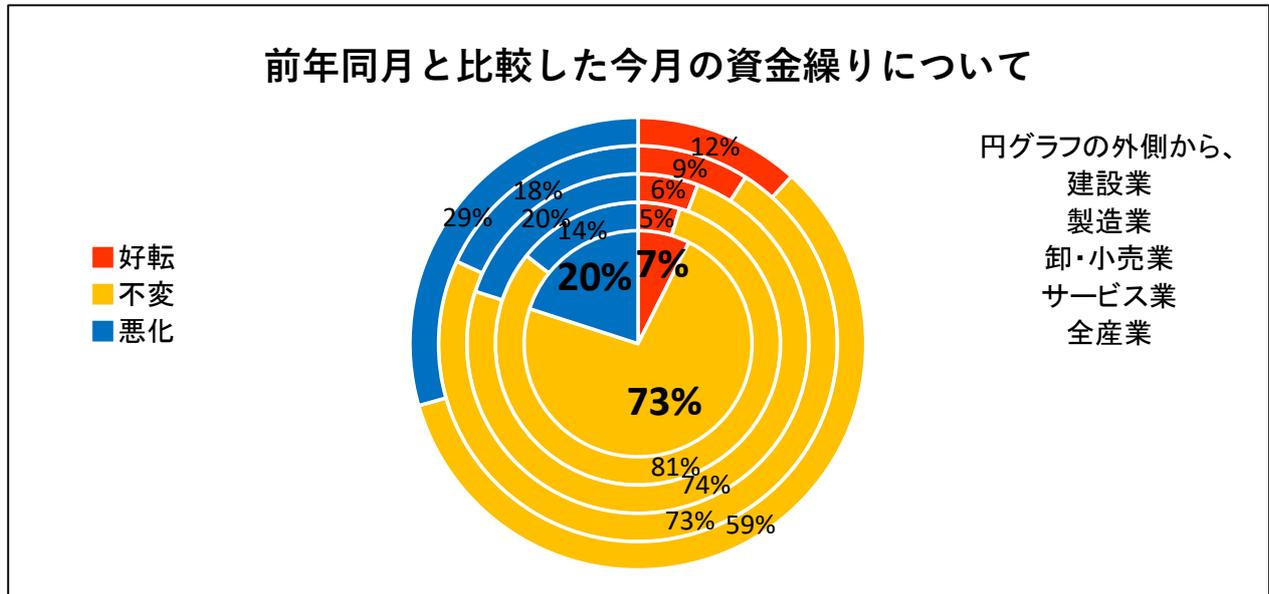
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月~3月(12月~2月)
全産業	△22.4	△13.1	△17.9	△17.3	△23.5	△15.7	△17.8(△24.7)
建設	△27.2	△21.0	△27.2	△5.8	△35.2	△17.6	△17.6(△47.0)
製造	△25.0	△12.5	△12.0	△13.0	△17.3	△18.1	△18.1(△17.3)
卸・小売	△20.5	△12.1	△14.7	△22.2	△18.7	△5.7	△8.5(△15.6)
サービス	△18.5	△8.6	△20.0	△22.7	△29.4	△28.5	△33.3(△29.4)



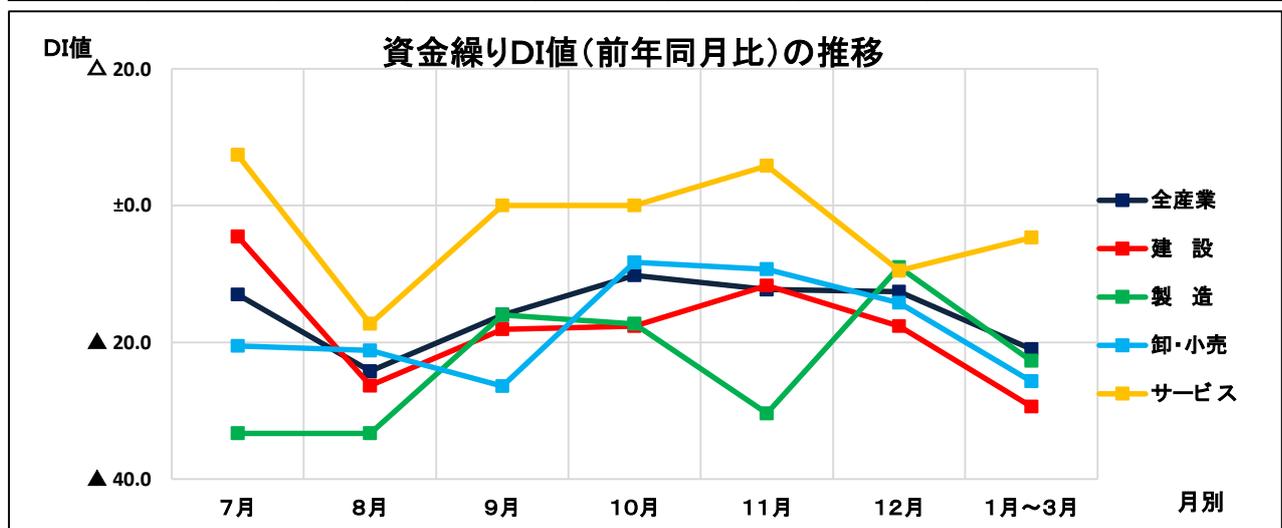
【資金繰りについて】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.6(前月水準▲12.3)となり、マイナス幅が0.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.0(前月水準▲14.6)となり、マイナス幅が6.4ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年						先行き見通し
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月~3月(12月~2月)
全産業	▲13.0	▲24.2	▲16.0	▲10.2	▲12.3	▲12.6	▲21.0(▲14.6)
建設	▲4.5	▲26.3	▲18.1	▲17.6	▲11.7	▲17.6	▲29.4(▲11.7)
製造	▲33.3	▲33.3	▲16.0	▲17.3	▲30.4	▲9.0	▲22.7(▲30.4)
卸・小売	▲20.5	▲21.2	▲26.4	▲8.3	▲9.3	▲14.2	▲25.7(▲15.6)
サービス	△7.4	▲17.3	±0.0	±0.0	△5.8	▲9.5	▲4.7(△5.8)

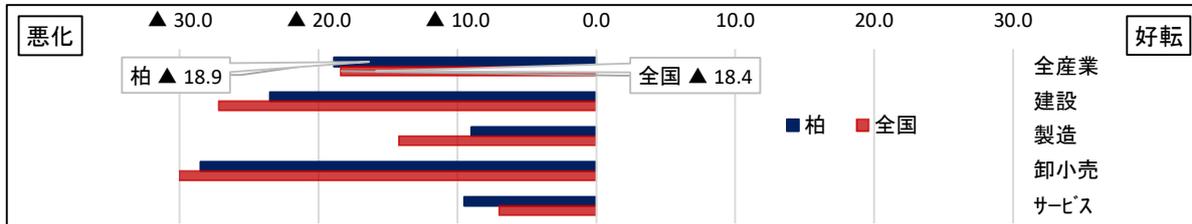


# 全国（CCI-LOBO）との比較

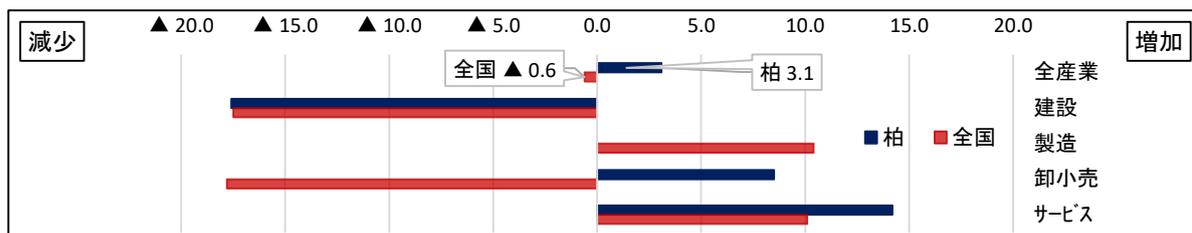
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

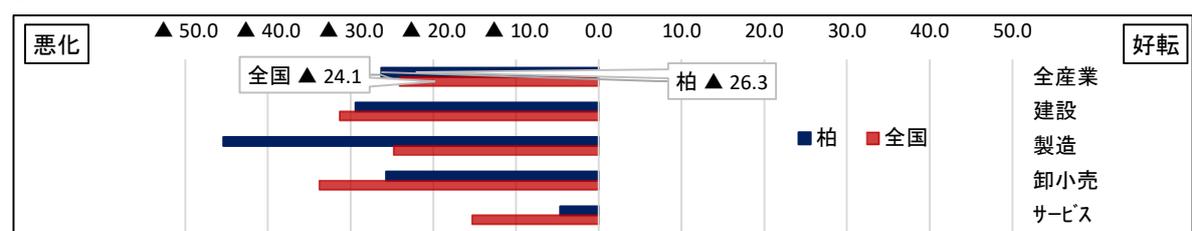
### 【業況D I】



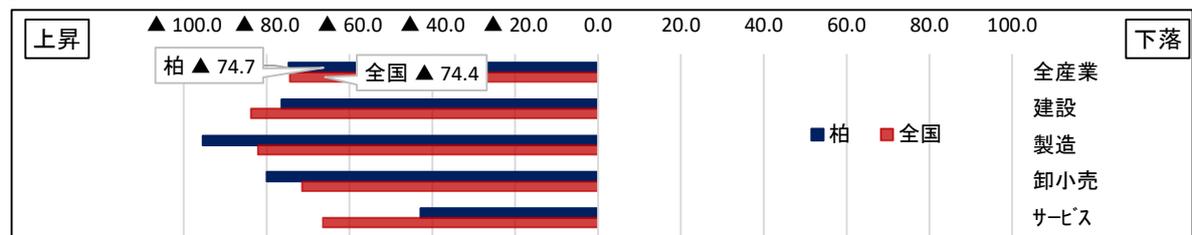
### 【売上D I】



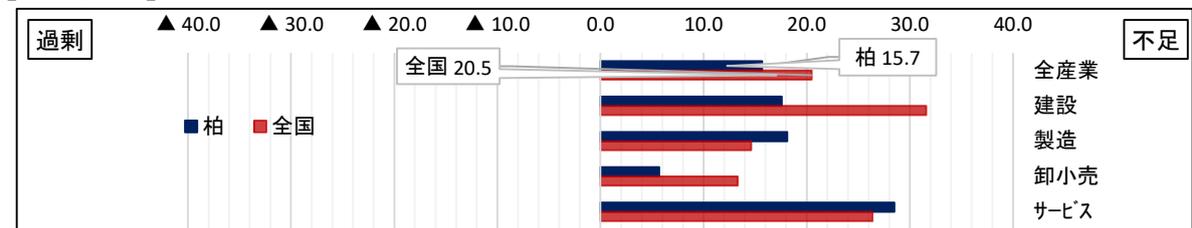
### 【採算D I】



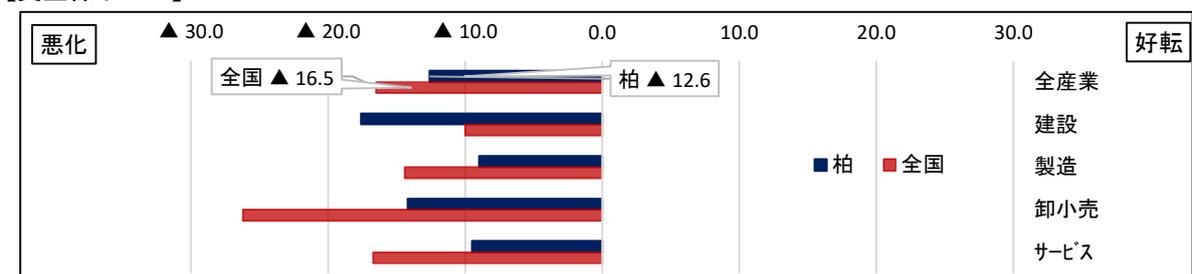
### 【仕入単価D I】



### 【従業員D I】



### 【資金繰りD I】



## 【業種別】業界内トピックス

業種別	概況	業種
建設業	公共工事の単価が現在の値上げのスピードに追いついていないのが現状です。	塗装工事業
	インボイス制度の対策が不安	瓦斯機器、暖房空調工事業
	一般顧客の畳工事受注は減少しているが、リフォーム会社や工務店からの受注が好調。	畳工事請負・畳製造販売業
	新年に向けて見積もりの依頼は多く来ているが、その内仕事に結びつくのは数パーセントにとどまる。相見積もりが多くやはり単価のたたき合いに結びつき、利益を得るのはとても難しい。	とび
製造業	コロナ禍、半導体不足、仕入価格の上昇などの影響を受け、依然として業績への深刻な負の影響が継続しております。	電子応用装置製造業
	新型コロナの影響で低迷したままの化粧品容器の受注に改善が見られない。医療品容器に関しては新企画や量産受注に改善は見られ始めた。	プラスチック加工
	インバウンドが戻りつつあるので設備投資が増えている	機械・同部品製造業
	リスクの長期化と増大により、世界的に景気が後退の可能性も増してきたと感じます。自社の足下及び中長期見直しが必要。	金属素材材製品製造業
	新型コロナウイルスの影響は継続しているうえに、原材料やユーティリティー費の高騰がのしかかる。来年には色々な行事等も通常に戻っていくことに期待。	酒類製造業
	太陽光パネルの導入を決めたが部品が調達できず、納品の目処はたたない。電気代を抑えるためにも早い納品が待たれる。売上ではないがここにもコロナの影響がある。価格改定が認められた取引先は売上が増加している。今冬は従業員に賞与が出せて安堵している。	金属製品
	コロナ第8波に伴い社員の濃厚接触者増加で、テレワーク等の活用を実施。売上は予算見通しを上回っているが、原熱料コスト増加で収益は悪化。1～3月はユーザーの在庫調整もあり、売上減に加え原熱料増加で収益は厳しい。	鉄鋼業
	ロシア・ウクライナ情勢不安の長期化や円安により、原油高、原材料高が続き、仕入れ商材の値上げが止まらない。一方で、売上も低調で、国内需要そのものが落ちてきている。顧客も二極化が進み、売上が伸びているもしくは現状維持出来ている顧客と徐々に売り上げが落ちていく顧客とがはっきりしてきた。	自動車付属品製造業
卸・小売業	人の活動が活発になっているが、クリスマスなどのイベントはイエナカの傾向が見える。価格高騰の影響でお客様は価格に非常に敏感。セールの内容によって集客が変わる。	大型小売店
	感染症の影響は少なからずあるが、そういった状況を乗り越えた新たな生活様式に則った商流、習慣において既存の社内資源をフィットさせていくかが重要であると感じている。それだけでなく自然減はある。弊社ではSDG'S、社会的責任を意識した新たな商品の開発、販路の拡大、新規事業への参入を軸にしている。	食料卸売業
	感染拡大の影響で客足が鈍い	時計・眼鏡・光学機械小売業
	電気代の高騰が大きな問題になっている。	各種食料品小売業
	燃料費の高騰、原材料費高騰など、デベロッパ・テナントともに利益を圧迫する傾向の継続が想定される。	各種商品小売業
	コロナ前ほどではないが賑わいは戻ってきた。しかし、仕入や光熱費等の高騰のため価格へ転嫁するが限度がある。	各種商品小売業
	仕入れ価格、燃料費の高騰、仕入れ価格分の転嫁はできたが、燃料、電気代まではできていない状況	飲食料品小売業

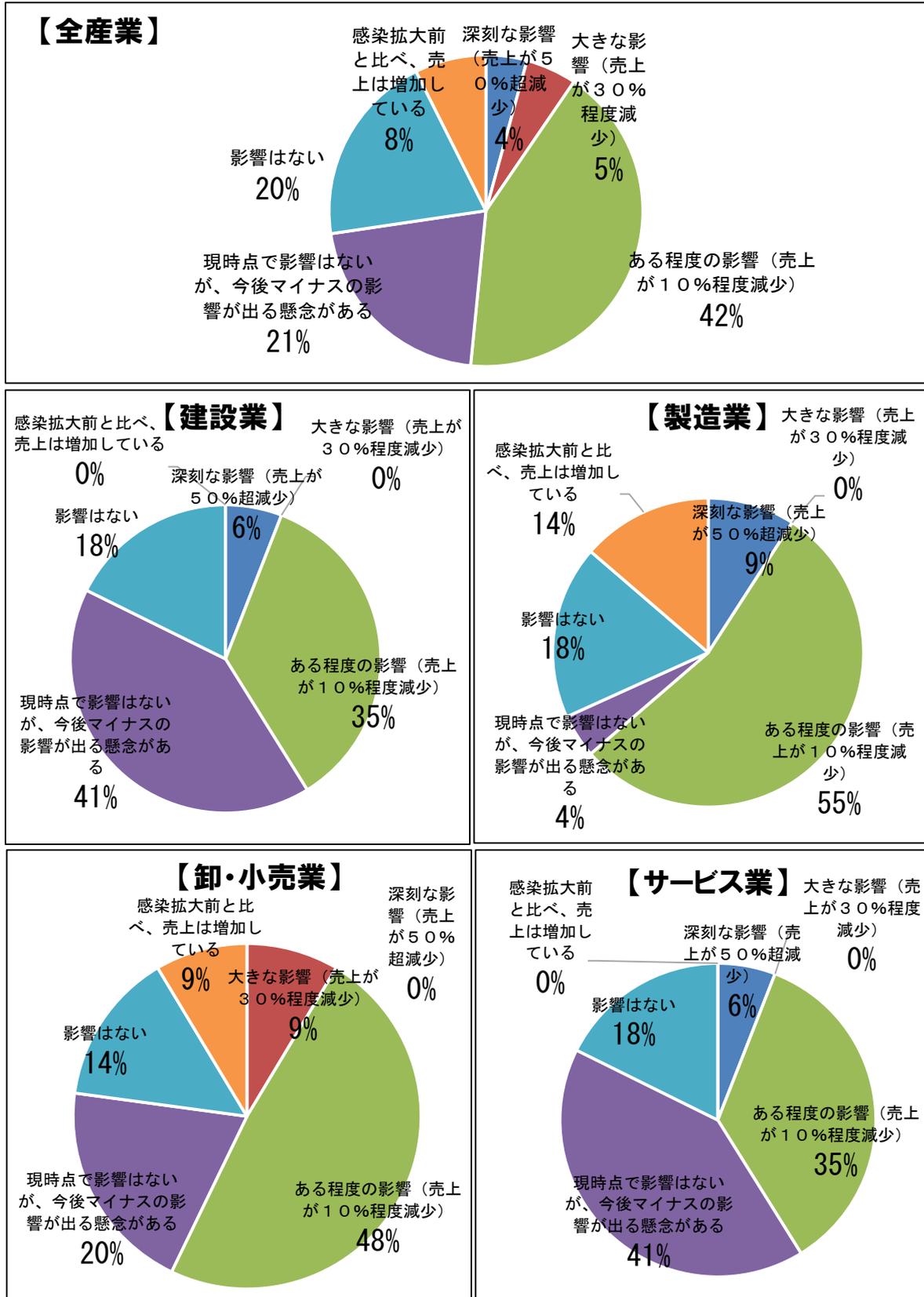
## 【業種別】業界内トピックス

	3年振りの行動制限のない年末商戦となり、クリスマス週間を中心に被服雑貨が2ケタ伸長。食物販もケーキ需要が大きく伸びるなど賑わいを取り戻した月となった。	百貨店
	中国経済の悪化に伴って、対中依存度が高い東南アジア各国の景気が悪化している気がする。世界的にはかなり景気が後退しているため、その影響がどの段階でどこまで日本に来るかが気になるところです。中期的には売り上げ厳しくなると予想して、国内の新規事業に重心を置くようにしています。	産業機械器具卸売業
	30年に渡り日本経済を蝕んでいたデフレスパイラルが、コロナ、ロシアのウクライナ侵攻を機に終焉を迎えたようだ。今後は旧冷戦下の経済のように、インフレが状態化し日本もその影響を十二分に受けるとされる。また新型コロナに起因する特別融資枠で生存した企業の淘汰がこれから始まると思っていたが、新たな救済策が出そうなのでこちらは延命されるだろう。弊社も日本政策公庫から特別枠で融資をコロナ後に申し込んだが、売上の予定に信憑性が無いという理由で断られた。その後休日返上で他社の2倍働いた影響で、昨期は売上高過去2番目までV字回復させた。	自動車卸売業
サービス業	年度末に向けた工事が多いが、年度明けが不明。	ソフトウェア業
	TX沿線の不動産価格が上昇が著しい、また、購入に適した売地も希少になっている。	不動産賃貸・管理業
	旧そごう跡地は壊すなり、今のまま利用するなり単独で行動を見せて欲しい。そうしないと周りの商業者・地権者は絶対に絵空事には付き合えない。	不動産賃貸業
	これから受験期を迎えるため塾全体で細心の注意を払っている。何とか生徒たちが全員無事に受験を迎えられるよう祈るばかりだ。	学習塾
	不動産価額の上昇が続いています。また、原材料費の高騰により建築も急激に上がっています。金利の先高観や諸物価の大幅アップにより、購入客の減少が今後発生しそうです。	不動産管理業
	光熱費、仕入金額等が大幅に上昇して業績が悪化している。1月～2月の寒波の影響により、売上は1割～2割下がる見通し。来年の3月頃には再値上げを予定。	ゴルフ練習場
	来年はコロナ禍が現在程度であれば景気は改善するが、新たな変異株で被害が大きくなると、また急減速のリスクがある。また、中国の動向によってもかなり大きく左右される年になると考えます。	技術サービス業
	鉄鋼関連はカーボンニュートラル達成に向けた高炉から電炉シフト。この電気炉用排ガス処理設備のリプレース及び容量の集約による大型化等需要拡大が予想され計画助勢増加見込み。従って、当方は景況感堅調に推移予定。	専門・技術サービス業
	学校を運営していますから、年末年始には大きな変化がございませんが、やはり学期により変化は生じます。	専修学校、各種学校
運送業界の人手不足が続く中、2024年の基準告示による時間外等の新基準にあわせるべく、体制づくりが急務。	一般貨物自動車運送業	

附帯調査結果

# 新型コロナウイルス感染症の影響について

○新型コロナウイルス感染拡大前と比べた、今月の売上について



# 調査要領

回答期間

令和4年12月22日 ~ 令和5年1月6日

調査対象

柏市内146事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	146	98	67.1%
建設	32	18	56.3%
製造	35	22	62.9%
卸・小売	48	36	75.0%
サービス	31	22	71.0%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こ う3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				